

事例報告 2

集落から出土した鏡について —倉見川端遺跡・田端不動坂遺跡を例として—

公益財団法人かながわ考古学財団 相良英樹

はじめに

本稿では、集落遺跡において鏡が出土した事例を見ていきます。遺跡としては、神奈川県寒川町の倉見川端遺跡と、東京都北区の田端不動坂遺跡の2つの遺跡を取りあげます。

1. 倉見川端遺跡

倉見川端遺跡は神奈川県高座郡寒川町倉見に所在します。遺跡の発見された寒川町は神奈川県のほぼ中央寄りにあり、県内では県央から湘南地域を南北に流れる相模川左岸に位置します。相模川と目久尻川によって形成された自然堤防上に立地し、南北をそれぞれ倉見川登遺跡、宮山中里遺跡と接しています。

鏡はVI-3区にある61号竪穴住居跡から出土しました。61号竪穴住居跡は遺構の西側がはっきりとしませんでしたが、平面形状はおおむね方形を呈すると考えられます。一辺は約4.1mで、周囲は壁溝がめぐります。ピットは遺構の南東隅に1柱確認されました。貼り床と捉えた面が確認されましたが、炉は見つかっていません(図2)。

鏡は青銅製で、直径は6.8cmを測ります。小型の倣製鏡で、一部が欠損しているものの、ほぼ完形の状態で出土しました。素文縁、櫛歯文帯、珠文帯に区画され、珠文の間にはS字状の浮文があります。使用感が有り、一部に赤色顔料の痕跡があります(図3)。蛍光X線分析では銅と錫のほか、鉛にピークが見られることから、鉛入りの青銅と考えられます。赤色部分は酸化鉄 Fe_2O_3 をより強く検出したことからベンガラと考えられます。

その他の遺物では甕や壺、小型壺、小型丸底壺、鉢、高坏が出土したほか、金属製品では鉄鎌1点、板状鉄斧1点が出土しました。鉄斧には槍鉋?の一部に類似した製品が付着しています。遺構の検出状況および出土遺物から61号竪穴住居跡は古墳時代前期後半の所産と考えられます。

倉見川端遺跡の集落は、確認された遺構は弥生時代後期中葉から始まり、弥生時代後期後葉から古墳時代前期初頭にピークを迎えます。その後、古墳時代前期前半を経て、前期後半に一旦集落としての役割を終えるようです。弥生時代後期後葉から古墳時代前期初頭以降の住居跡の遺物組成を見ると、土師器では主に甕や壺、高坏、鉢で構成され、器台が極少数出土しています。その他の遺物では、磨石・敲石や鉄鏃と槍鉋が数点出土しました。(表1)。

鏡が出土した61号住居は集落の南側に位置します(図1)。弥生時代後期から古墳時代前期に比定される64号住居を除けば、集落の南端に位置します。

2. 田端不動坂遺跡

田端不動坂遺跡は東京都北区に所在します。遺跡は、赤羽から上野へ向かって伸びる武蔵野台地の北東崖端部に位置します。台地の平坦面は狭く、馬の背状になっているところに集落は位置します。2001年までに第17地点までの調査が実施され、鏡は第17地点の調査で出土しました。

鏡は第8号土坑から出土しました。土坑は23号住居を切っているか、あるいはその柱穴を再利用してい

ると報告されました。土坑内に鏡を入れた箱を置き、鏡と玉類が納められたのち埋め戻されたようです。その後、鏡箱の上部には、土器や砥石、玉類が出土しました。段階を踏んでこれらの工程が行われたことが窺われます（図4）。

鏡は青銅製で、直径は5.64cmを測ります。小型の倣製鏡で、ほぼ完形で内区の文様から珠文鏡とされます（図5）。蛍光X線分析では銅と錫のほか、鉛にピークが見られる鉛入りの青銅です。赤みがあったことから水銀朱も期待されましたが、赤銅鉱に由来するものようです。

その他の遺物では甕や壺、高坏、埴が出土したほか、石製品では砥石、玉類では勾玉（瑪瑙・滑石・ガラス）、管玉（緑色凝灰岩）、棗玉（琥珀）、丸玉（琥珀・水晶）、ガラス小玉が出土しました。

田端不動坂遺跡の集落は弥生時代後期をピークとして、弥生時代後期から古墳時代前期初頭を経て、古墳時代前期後半に集落としての役割を終えたと考えられます。鏡が出土した第8号土坑を除く、住居からの遺物組成を見ると、弥生土器・土師器では主に甕、壺、鉢、高坏で構成され、石製品は転用砥石以外では、古墳時代前期後半の住居から管玉、白玉が出土しました。金属製品は鏡以外での出土はありません（表2）。

鏡が出土した第8号土坑は調査区ではやや南西に位置します。古墳時代前期後半の遺構が比較的まとまった箇所です。

3. まとめ

古墳時代の集落から出土した神奈川県と東京都の2つの事例について見てきました。両方の集落に共通するのは、鏡という特殊な遺物が住居や土坑から出土したということです。また、どちらも一旦、集落が途切れる古墳時代前期後半の遺構から出土しました。また、農耕具といった鉄器や玉類が鏡に共伴して出土した点も特徴と言えます。

住居から出土した遺物組成も概観してきました。土器の器種について比較してみましたが、違いは見いだせませんでした。倉見川端遺跡では石製品では、磨石・敲石が数軒で出土し、鉄器は少量ながら出土がみられました。田端不動坂では、石製品は転用品の砥石が1点みられるほか、玉類が1軒から出土しています。鉄器はまったく出土していません（表2）。こうして見ると、鏡と共伴した遺物は、集落の全時期を通じて、ほとんど出土していない遺物の集まりのようです。

遺構の立地について比較してみると、特に倉見川端遺跡は、それまでの集落の中心からはやや外れたところに位置するようです。おそらく偶然ではないでしょう。

おわりに

今回扱った2つの遺跡では鏡が出土したことで注目されましたが、共伴した農耕具や玉類をみると、鏡以外の遺物についても祭祀に用いられたことが考えられます。ただ、鏡との厳密なセット関係があるかは分かりませんでした。今後の調査を実施する上で、特に集落の廃絶時期にかかる遺構を調査する場合、遺構の状況、出土する遺物の組成には改めて注意を要することを痛感しました。

参考文献

阿部友寿・高橋 香・井関文明 2018『倉見川端遺跡 第2次調査』かながわ考古学財団調査報告 318

公益財団法人かながわ考古学財団

中島広顕・新井 悟 2003『田端不動坂遺跡V』北区文化財調査報告第30集 東京都北区教育委員会生

涯学習推進課

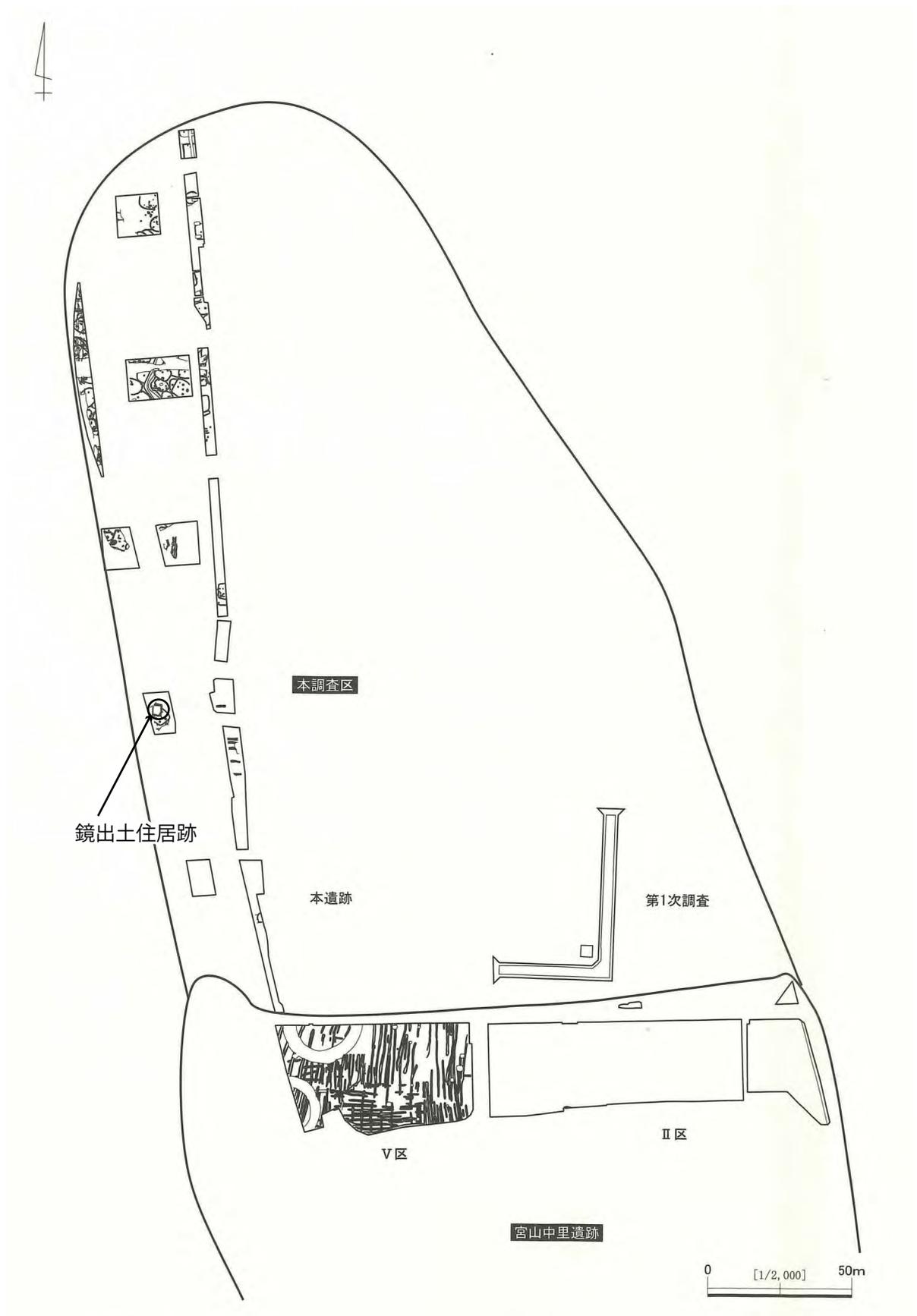


図1 倉見川端遺跡弥生時代後期～古墳時代前期遺構配置図〔阿部ほか 2018 第 332 図を一部改変・加筆〕

表1 倉見川端遺跡住居出土遺物

住居	時代	土器						石製品		金属製品				
		甕	壺	鉢	高坏	小型丸底壺	器台	磨石・敲石	砥石	槍鉋	鉄鍬	鉄鎌	鉄斧	鏡
2号竪穴住居跡	弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭	33	54	1	3									
3号竪穴住居跡	弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭	40	41	1	3									
5号竪穴住居跡	弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭	30	32	2										
6号竪穴住居跡	弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭	108	48	4	15									
13号竪穴住居跡	弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭	6	11											
14号竪穴住居跡	弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭	13	18											
18号竪穴住居跡	弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭	22	273	4	3					1				
20号竪穴住居跡	弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭	3	5		2									
22号竪穴住居跡	弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭	3	1											
23号竪穴住居跡	弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭	11	8											
24号竪穴住居跡	弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭	3	9											
25号竪穴住居跡	弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭	39	20	1										
31号竪穴住居跡	弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭	21	13											
43号竪穴住居跡	弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭	32	10	7										
52号竪穴住居跡	弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭	52	8	1	2									
54号竪穴住居跡	弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭	32	13		1				1					
55号竪穴住居跡	弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭	39	64	2	1		1		1					
56号竪穴住居跡	弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭	220	83	32	16				1			1		
57号竪穴住居跡	弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭	110	20	6	10				1					
62号竪穴住居跡	弥生時代後期後葉～古墳時代前期初頭	62	33	1	2									
29号竪穴住居跡	弥生時代後期～古墳時代前期	1	2											
44号竪穴住居跡	弥生時代後期～古墳時代前期	29	17		1									
46号竪穴住居跡	弥生時代後期～古墳時代前期	5	2											
50号竪穴住居跡	弥生時代後期～古墳時代前期	5	1	2	2									
51号竪穴住居跡	弥生時代後期～古墳時代前期	87	70	14	6									
53号竪穴住居跡	弥生時代後期～古墳時代前期	9	2	1	2									
9号竪穴住居跡	古墳時代前期初頭	49	33	1	1									
28号竪穴住居跡	古墳時代前期初頭	35	123	11	2									
35号竪穴住居跡	古墳時代前期初頭	102	12	2	1									
12号竪穴住居跡	古墳時代前期前半	9	3											
58号竪穴住居跡	古墳時代前期前半	47	30	5	9									
61号竪穴住居跡	古墳時代前期後半	391	217	7	18		1			1			1	1

表2 田端不動坂遺跡住居・土坑出土遺物

住居	時代	土器						石製品					金属製品	ガラス製品	
		甕	壺	鉢	高坏	埴	甗	砥石	勾玉	管玉	白玉	霰玉	丸玉・小玉	鏡	ガラス小玉
第12号住居址	弥生時代後期～古墳時代前期初頭	9	7	2	7										
第15号住居址	弥生時代後期～古墳時代前期初頭	3	3		1										
第19号住居址	弥生時代後期～古墳時代前期初頭		4	1											
第36号住居址	弥生時代後期～古墳時代前期初頭	5	3												
第7号住居址	古墳時代前期				1										
第8号住居址	古墳時代前期					1									
第18号住居址	古墳時代前期後半		1		1		壺転用								
第20号住居址	古墳時代前期後半	5			3	1			3	3					
第23号住居址	古墳時代前期後半	1			1										
第8号土坑	古墳時代前期後半	1	2		3	2		5	34			2	3	1	67

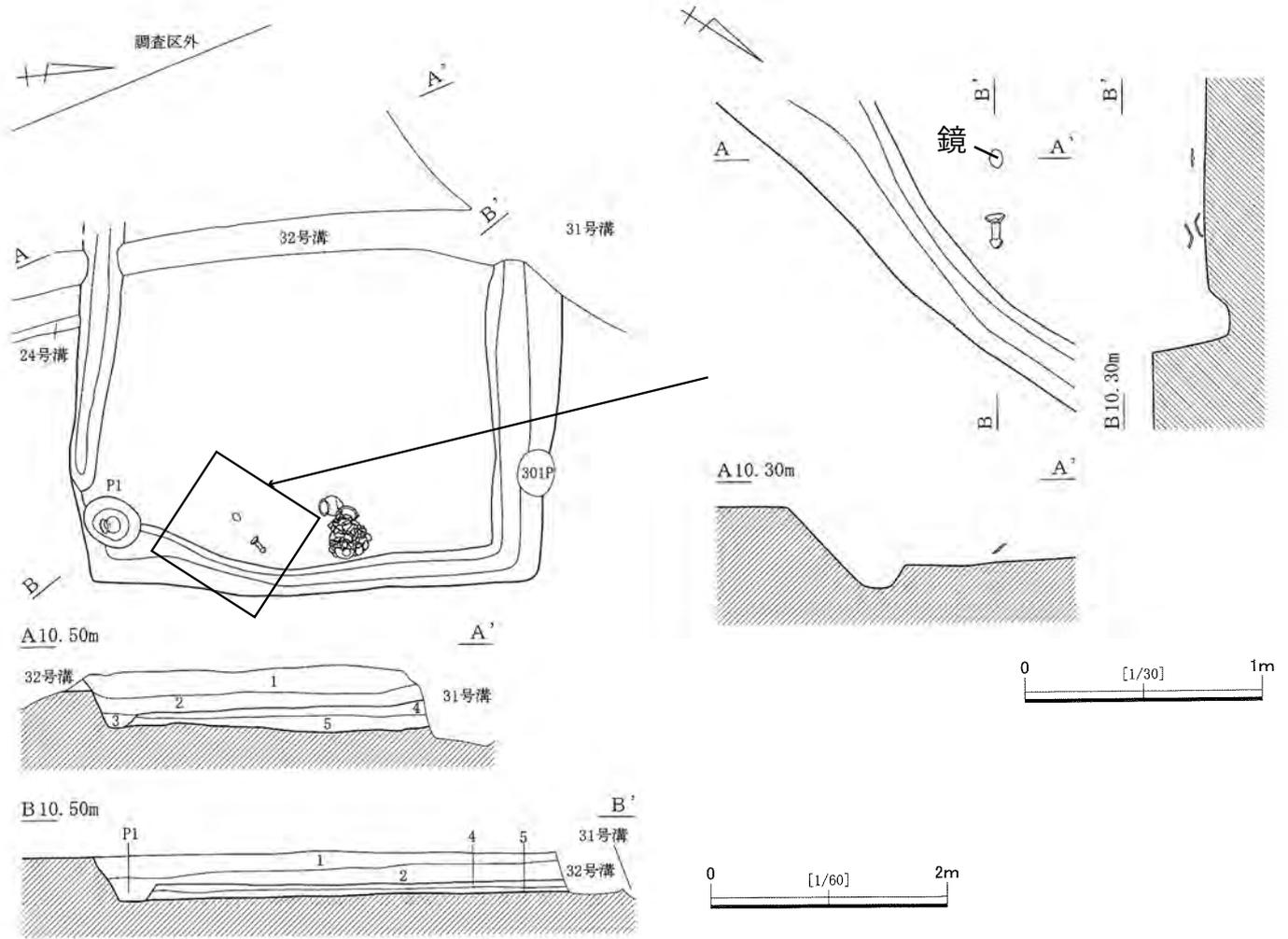


図2 61号竪穴住居跡図および遺物出土状況〔阿部ほか 2018 第280図を一部改変・加筆〕

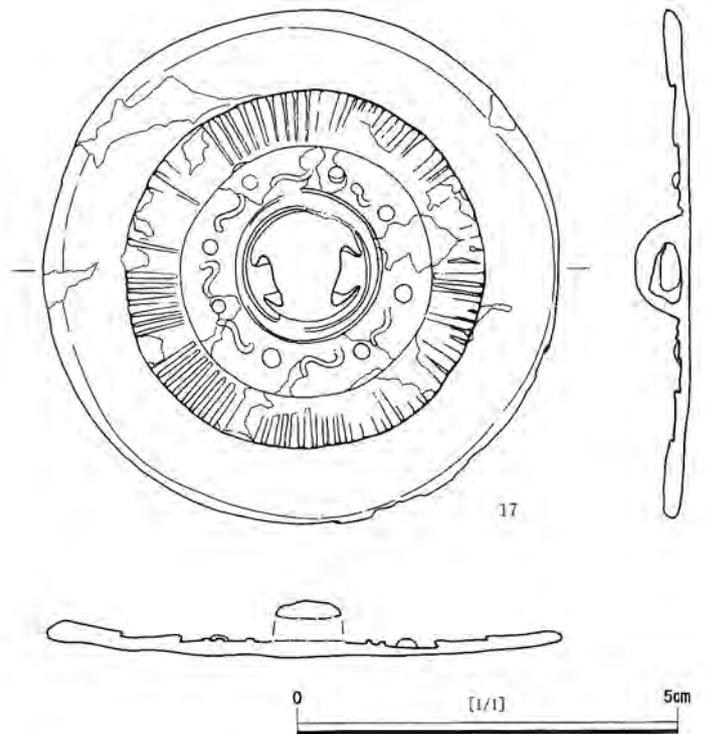


図3 61号竪穴住居跡出土鏡〔阿部ほか 2018 巻頭図版2-1 および図版283を一部改変〕

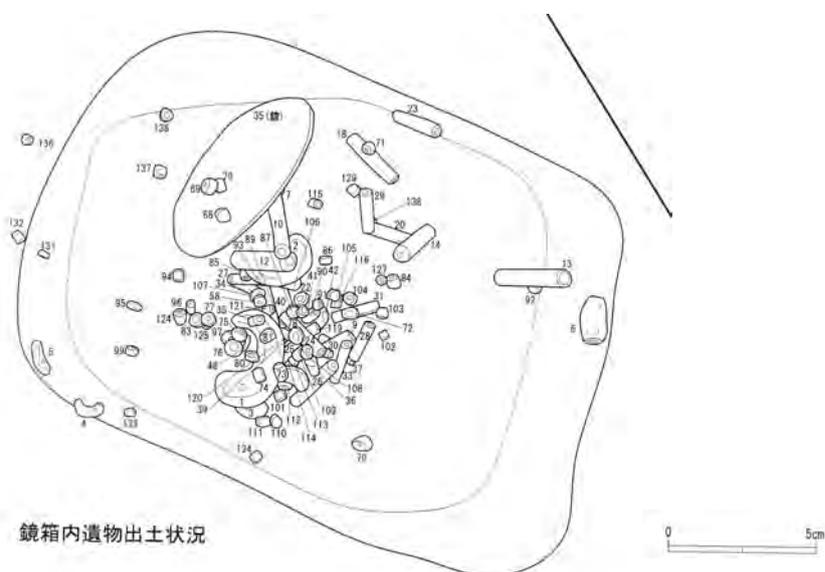
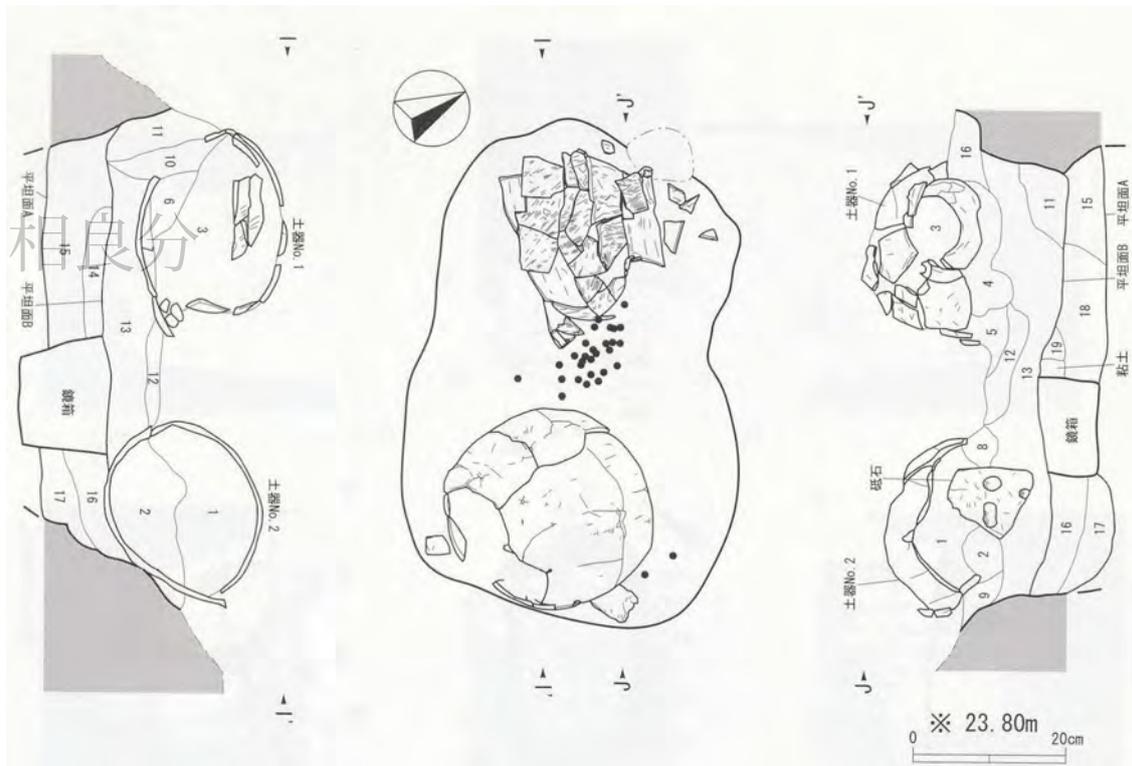


図4 第8号土坑上部土器出土状況および鏡箱内遺物出土状況〔中島ほか 2003 第 158・160 図を一部改変〕

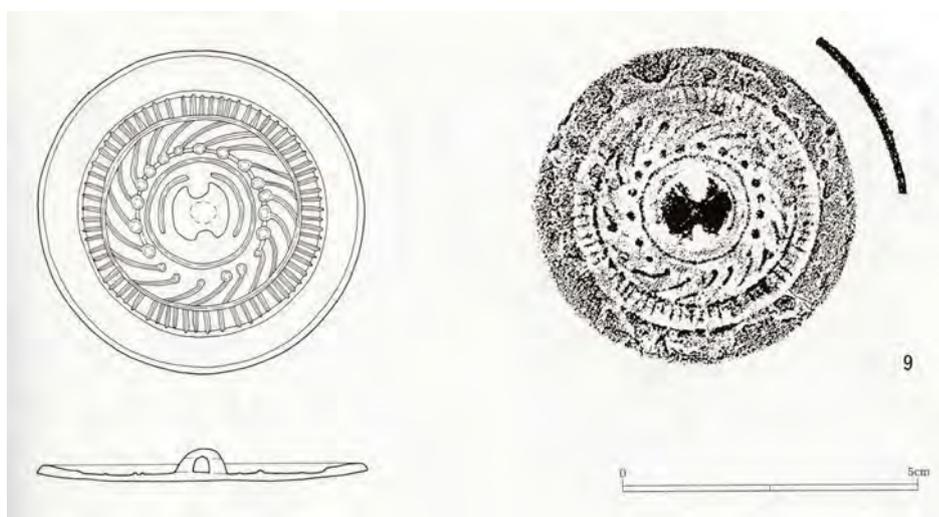


図5 第8号土坑出土鏡〔中島ほか 2003 第 163 図を一部改変〕

表紙写真

上：寒川町倉見川端遺跡出土 珠文鏡（かながわ考古学財団調査報告 318 「倉見川端遺跡第2次調査」2018より転載）

下左：小田原市高田南原遺跡出土 珠文鏡（かながわ考古学財団調査報告 199 「高田南原遺跡（第II地点）」2006より転載）

下右：厚木市戸田小柳遺跡出土 双頭龍文鏡（かながわ考古学財団調査報告 315 「戸田小柳遺跡」2016より転載）



公益財団法人かながわ考古学財団 令和2年度考古学特別研究講座

—報告書の成果から導き出されるもの—

古墳時代のムラの鏡

—住居の鏡・水辺の鏡—

発行日 2020(令和2)年10月10日

発行 公益財団法人かながわ考古学財団

〒232-0033 横浜市南区中村町 3-191-1

TEL 045-252-8689 FAX 045-261-8162